

## 今月の断酒表彰

☆ S・Hさん 南千里支部 断酒四年

断酒表彰おめでとうございます。

ますますのご活躍を期待いたします。

<平成 29 年 10 月 1 日入会>

☆ M・Tさん 南千里支部

新しい仲間です。よろしくお祈いします

## 断酒に思う (83)

### 断酒継続 4 年をまじかに控えて 南千里支部 S・H

私は 10 月末でやっと断酒継続 4 年になります。8 年前に妻に連行された新阿武山クリニックで平野ドクターに正真正銘のアルコール依存症だと診断されました。

最初の 4 年間はのりくらし嘘をつきながら飲みながら通院していました。断酒会にも入会させてもらいましたが酒を飲みながら例会通いをしていました。この不誠実な人間が世間で通用する訳がありません。体調が益々悪くなり、75 歳の後期高齢者になった時、これでは駄目だ、無様な死に方はしたくない、真剣に断酒に取り組んで健康を回復することができるかどうか挑戦してみようと決意しました。

それからは毎週 1 回、クリニックと断酒会の例会通いを義務付けました。それが功を奏したのかどうか、すっかり元気になり、断酒継続の意欲が湧いてまいりました。

この 10 月末で断酒継続 4 年を迎えることになります。この中で得られた教訓は幾つかあると思いますがその一つは本人が必ず実行するという決意を固めること、二つ目は妻の協力が不可欠だということだと思います。

健康長寿を願ってこれからも断酒継続に挑戦しようと思います。



平成 29 年 11 月 1 日発行 No.177

編集・発行 事務局・広報部

<http://suitashi-danshukai.net>

## 【今月の「指針と規範」】

### 断酒会規範 五

断酒例会はあらゆる条件を超えて平等であり、支配者はいない

万事合理主義が幅を利かしている現在、断酒例会にひたすら出席して、今日一日、今日一日と断酒の日を積み重ねているわれわれの断酒法は、あまりスマートではないかもしれない。

時間と労力を使ってあちらこちらの例会に出席しなくても、アルコール依存症の病識を徹底的に頭にたたき込み、自宅で心静かに自らを内観すれば、あるいは酒を飲まなくなるかもしれない、と思うこともあるだろう。しかし、そうした形の断酒を目指して成功した人はいない。

やはり、酒害者が酒を断ち、それを継続していくためには、からだを使って例会に出席し、足を使って酒害相談に駆けめぐり、そうした行動の中で酒害者同士が信頼を深め、自分を知る努力をするしかない。

であるとしても、ぼう大な時間と労力を要する苛酷ともいえる努力を、どうしてわれわれは進んで行っているのだろうか。それは、例会が魅力に溢れているからである。われわれを引きつけて止まないからである。

断酒会は企業や組合のような縦組織を持っているが、われわれにとって一番大切な例会に関しては、組織として機能するのは例会場の設営までである。

例会の中身は、役職や断酒歴に関係なく平等な立場で参加したわれわれがつくる。縦組織とはまるで関係のない横一線の形で進められる。

会長や支部長が参加者に訓戒を垂れるわけではない。断酒歴の長い会員が、新しい会員に酒のやめ方を教えるわけでもない。司会者が会員の発表に論評を加えるわけでは勿論ない。われわれはひたすら自分の酒害体験と内面を語り、聞く。そこには感動と安らぎがある。例会の中に広い海のような自浄力が生まれる。

断酒会が自由、平等を尊重する組織であることを一番わかり易く説明できるのがこの例会である。三十年断酒している会員と、昨日まで酒を飲んでいた会員の間には何の差別もない。それぞれが自分を自由に表現するだけである。発表内容についても自分自身のことだから、誰にも指示されず、誰にも気がねすることはない。その日のテーマがあつたとしても、特にこだわることはない。今、一番話したいことを話すだけである。

<中略>

例会をリードするのは役員、ベテラン会員、司会者等であると考えている人がいるかもしれないが、それは大きな誤りである。例会は特定のリーダーを必要としない。

参加者全員が原則通り、ただひたすら自分を語ることですばらしい雰囲気ができ、苦しみ悩んでいる会員が、たとえばかばかしいと思われることでも本音を正直に語ることで感動が生まれる。ベテラン会員が少しも思い上がりせず、深い洞察力でじっくり自分を語れば、なごやかさと緊張感が同時に生まれる。

例会のリーダーシップをとるのはそうした複数の会員であり、ときには、全員がリーダーになる。

断酒会は例会中心の組織である。縦の関係より、横の関係の方が何倍も重要である。断酒会は平等という横の関係でほとんどの問題を解決している。縦組織を持ちながら横関係を重視するのは、同じ病気からの回復という共通の目的を持っているからである。断酒会は特殊な組織であり、企業や組合と同じ縦割りになっていても、本質的にはまるで違うということである。

(指針と規範 P63~P69)

の後台湾からフィリピンにエビ養殖技術が波及し、東南アジア各地にその技術が広まっていくことになる。

〈養殖地域のひとつ：インドネシア第二の都市スラバヤ市〉



〈養殖池〉



〈船で移動する。〉



〈冷凍食品工場〉

## みんなの広場

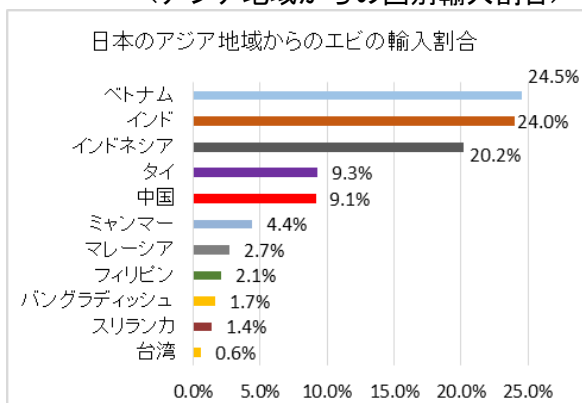
養殖エビについて 吹田支部 Y・H

日本人にとって食材として親しみのあるエビは、どこで育成され、我が国に入ってきているのか。お仕事をエビの流通に携わっておられる Y さんに、資料・写真の提供と説明をして貰いました。



〈バナメイエビ〉

### 〈アジア地域からの国別輸入割合〉



出所：2014年農林水産省

「品目別貿易実績(品目別輸入実績 えび)」

### 「養殖エビの歴史」

海老の養殖の歴史は1960年代にクルマ海老養殖が日本で成功したことを起点に、台湾で1968年ブラックタイガー海老の人工孵化・種苗生産が成功し、1977年に人口飼料の大量生産に成功したことに始まる。エビ養殖の集約化は、台湾でのこれらの養殖技術の成功・発展があったことを抜きにして語れない。その後、台湾は1980年代にウイルスの蔓延により輸出量が激減するまで、エビ養殖界の先陣を切っていくことになり、エビ養殖の発展において非常に重要な役割を果たした。そ

### 「エビの主な種類」

私たちが普通食べるエビのほとんどは、遊泳類のエビであり、クルマエビ族クルマエビ科という種類に属する。世界で取引されているエビの80%以上を、このクルマエビ科が占めており、大型のものが多く世界貿易の対象となっているため、国際規格があり、常に価格は変動する。

主な種類はブラックタイガーやバナメイが中心になる。日本では、昔から食べてきたクルマエビは、高級エビで他の養殖エビに比べ高級品として流通している。

〈みんなの広場〉では会員家族のみなさんからの

投稿を掲載していきます。

近況報告、趣味の披露、読書感想、映画・ビデオ鑑賞の印象、会へのご意見等々、発表形式は、散文、短歌、俳句、川柳、漫画、イラストなんでも結構です。奮って応募して下さい(広報部)

